

話題の

「ジグリング(びんぼうゆすり)」 の効果や正しいやり方が本になりました！

身体のかなめ「股関節」のしくみから、要介護・要支援の三大原因の一つである「変形性股関節症」、新保存療法「ジグリング(びんぼうゆすり)」の正しいやり方までを、変形性股関節症治療の権威である柳川リハビリテーション病院・井上明生名誉病院長と廣松聖夫リハビリテーション科部長が、豊富な図表と共に分かりやすい言葉で徹底解説します。

「びんぼうゆすり」で変形性股関節症は治る！



「これまでの経験と観察から変形性股関節症の患者さんに対するジグリング(びんぼうゆすり)の適用には十分な効果が現れています。しかし、ジグリングという保存療法を積極的に治療に取り入れている医療機関は、現在のところ全国的に見ても決して多いとはいえません。そこで、ジグリングの学術的な検証をさらに進め、ジグリングという保存療法の普及を図るため、2016年3月に全国有数の著名な股関節専門の医師らとともに研究会を立ち上げました。ジグリング研究会の成果を日本から世界へ発信し、世界中の同じ疾患で苦しむ患者さんの治療に役立てることができれば、医師としてこれほど幸せなことはありません」
(「あとがき」より抜粋)

井上明生、廣松聖夫 共著

出版社 株式会社エイチアンドアイ

版 型 A5 版並製

ページ数 128 ページ

定 価 1000 円+税

目 次

プロローグ
保存療法のかなめとなる治療法「ジグリング」

PART1
身体全部を支える関節「股関節」

PART2
日本人に見られる変形性股関節症の原因は
「臼蓋形成不全」「加齢」「過度な負荷」

PART3
ジグリングの正しいやり方

エピローグ
クセになるまで続けたいジグリング

井上明生

柳川リハビリテーション病院名誉病院長、柳川療育センター特別顧問
久留米大学名誉教授

1961年、大阪大学医学部卒業。大阪大学医学部整形外科准教授、
久留米大学医学部整形外科教授を歴任。2001年、柳川リハビリテー
ション病院病院長に着任。2016年より現職。

日本整形外科学会・日本股関節学会・西日本整形災害外科学会の名
誉会員。著書も多数。

廣松聖夫

柳川リハビリテーション病院リハビリテーション科部長

1989年、東京慈恵会医科大学卒業。同年、久留米大学医学部整形
外科学教室入局。2004年より現職。

日本リハビリテーション医学会指導医・専門医、日本整形外科学会
専門医、日本リウマチ学会専門医

入院でのジグリング治療 どのような効果が期待できる？

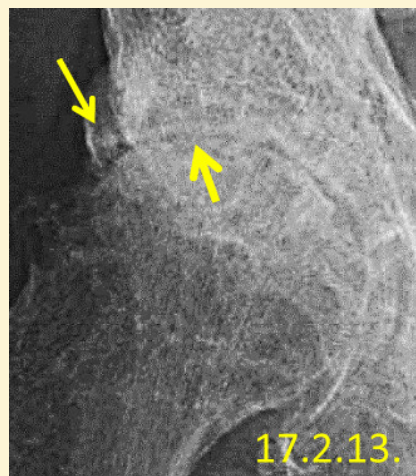
入院治療のメリット

- ①ジグリングマシンを規則正しく使用することができる
- ②免荷(下肢にまったく体重をかけない状態)を完全に守れる
- ③大型の CPM (自動下肢運動器) が使用できる

治療例



入院時 38 歳 男性。
リウマチと診断された既往あり
糖尿病のため人工関節は
避けたい



入院の上、車椅子を使用
CPM (大型自動運動器) 2 時間 / 日
自動ジグリング器: 2 時間以上 / 日
4 週間で関節裂隙の開大 (+)

成果

「車いす」もしくは「松葉杖」を使用して免荷をはかったうえで、自動ジグリング器を用いたジグリングを 2 時間以上、さらに仰臥位で用いる自動下肢運動器 CPM を数時間使用すると、1 か月で大幅な改善が見られることが分かった！